

# 令和3年度第1回健康いわき推進会議 議事録

保健福祉部健康づくり推進課

## 令和3年度第1回健康いわき推進会議議事録

1 日 時 令和3年12月15日(水) 14時00分から16時00分

2 場 所 アリオス 中リハーサル室

### 3 出席者

#### (1) 委員 (15人)

|    |        |    |        |
|----|--------|----|--------|
| 委員 | 内田 広之  | 委員 | 石田 篤史  |
| 委員 | 木村 守和  | 委員 | 上遠野 恭子 |
| 委員 | 中山 哲志  | 委員 | 北尾 智恵  |
| 委員 | 高萩 周作  | 委員 | 強口 暢子  |
| 委員 | 赤津 雅美  | 委員 | 坂本 満恵  |
| 委員 | 林 昭彦   | 委員 | 宗像 真人  |
| 委員 | 笏田 有美子 | 委員 | 高橋 貴大  |
| 委員 | 高橋 孝光  |    |        |

#### (2) 事務局 (13人)

|                |                 |        |
|----------------|-----------------|--------|
| 保健福祉部          | 部長              | 飯尾 仁   |
|                | 次長(兼)健康づくり・医療担当 | 佐々木 篤  |
| 保健福祉部健康づくり推進課  | 課長              | 草野 秀智  |
|                | 主幹              | 赤塚 典子  |
|                | 課長補佐兼統括保健技師     | 矢吹 敦子  |
|                | 健康政策係 係長        | 猪狩 僚   |
|                | 生活習慣改善係 係長      | 古市 裕美  |
| 保健福祉部地域医療課     | 課長              | 松本 祐一  |
| 保健福祉部地域包括ケア推進課 | 主幹              | 根本 健男  |
| 保健所            | 所長              | 新家 利一  |
| 保健所地域保健課       | 課長              | 酒井 直人  |
| こどもみらい部        | 部長              | 松島 良一  |
| 教育委員会事務局       | 学校教育推進室長        | 高橋 苗々子 |

### 4 議 事

- (1) 第20回健康いわき21推進市民大会について
- (2) 構成団体における健康づくりの取組みについて

※ 議事に先立ち、本日の議事録署名人について、高萩委員と坂本委員が指名された。

### 5 会議の概要

- (1) 第20回健康いわき21推進市民大会について

| 発言者 | 内 容                         |
|-----|-----------------------------|
|     | 【事務局からの報告に対し、委員からの質問等は無かった】 |

(2) 構成団体における健康づくりの取組みについて

| 発言者 | 内 容   |
|-----|---|
| 事務局 | <p>1 いわき市の健康の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定健診受診率：県内 13 市の中でワースト 1 位</li> <li>・ 高血圧有所見者：約 6 割（男性：6 割強 女性：6 割弱）なお、福島県自体が、全国でも血圧についてはワースト 1 位</li> <li>・ 50 代男性の肥満割合：約半数</li> <li>・ 健康寿命（お達者度）：県内 13 市の中でワースト 1 位</li> </ul> <p>2 健康づくりの市の取組みについて</p> <p>(1) いわきひとしお（減塩食普及プロジェクト）</p> <p>いわき市は、塩分摂取量が多く、高血圧の方が多く、急性心筋梗塞が全国の倍という状況であることから、減塩にアプローチしていこうという取組みである。「ひとしお」には、3つの意味がかかっており、①「ひと」と「塩」の関係で「ひとしお」、②ひとつまみ分の塩を減らすことを意識しようということで「ひとしお」、③減らした分喜びや健康が「ひとしお」になるよ、という3つの意味を込めて、「いわきひとしお」というプロジェクトを今年度からスタートさせた。今年度は小名浜の上野台豊商店さんと組み、「地産地消×おいしい×健康」という商品ということで、①さんまのトマト味噌ポーポー焼き、②さばのトマト味噌煮、③常磐白すり身の唐揚げの開発を進めている。次年度以降は、「いわきひとしお」のプロジェクトに、色々な地元の生産者さんに入ってもらって、商品がスーパー等に置かれ、消費者に買っていただいて、美味しく食べながらも減塩になっているというような取組みがいわきで進むことを目指している。</p> <p>(2) With コロナ YouTube エクササイズ生配信</p> <p>コロナ禍の中でも、運動習慣をなるべく維持できるように、今年度7月から毎週金曜日夜8時に、YouTube で市内の様々なエクササイズ講師の方に運動の生配信をやっていただく取組みを始めている。</p> <p>(3) いわきっ子生活習慣病予防健診</p> |

「若いうちから」ということで、令和2年度からスタートした、中学2年生対象の生活習慣病予防健診である。貧血検査の際の採血を利用して、コレステロールや血糖値等、生活習慣病に関わるような項目の検査を行い、自分の体の「今」を早めに知っていただくというもの。その後、保健師による授業を行い、自分の体に関する興味・関心やセルフケアの能力を若いうちから持っていただくことを目的とした取組みである。対象校は、昨年度5校、今年度6校となっているが、次年度以降も対象となる学校を増やし、このような取組みを今後も継続・拡大させていきたいと考えている。

(4) 特定健診とがん検診

① 特定健診に係る取組み

- ・3年連続未受診者への検診の再受診勧奨
- ・保健師の資格を有する健診コールアドバイザーの電話による再受診勧奨
- ・AI分析による再受診勧奨（過去の健診時の問診の内容を分析し、タイプに合った受診勧奨内容のハガキを送付）

② がん検診に係る取組み

- ・令和2年度から、40～75歳の方に、5歳刻みで、加入保険が何であっても、全員に受診券を送付
- ・子宮頸がん検診は21歳になる方に、乳がんは41歳になる方に無料のクーポン券を送付し、11月に再度、受診していない方に対して、再勧奨の通知を送付し、受診を促している。
- ・子供の3歳児健診に来た母親に対し、子宮頸がんの検診の受診勧奨を行っている。

③ その他

青年期、壮年期の方を対象に「からだが見えるお出かけ測定会」として、血管年齢や内臓脂肪の測定、生活習慣病予防に関する正しい知識の普及や健康相談などを行い、最終的にはけんしんの受診につなげることを目的とした事業を実施している。今年度は、新型コロナウイルス感染症により実施できていないが、今後スタートさせ、来年度以降も継続していきたいと考えている。

(5) 情報発信「いわきの極意」

食、けんしん、運動等、子供から高齢者まで、様々な対象者に健康に関する興味・関心を高めてもらうため、今後も引き続き情報発信に力を入れていきたいと考えている。

A委員

・いわき市の健康指標が低いというのは、いつまでも看過できな

|            |   |
|------------|---|
| <p>B委員</p> | <p>い問題である。これは、いわきの人に油断があることも一因と考えられるが、今後は、「汚名返上」ということで、行政と一緒にやっていきたいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師会としては、開業医と勤務医が、それぞれの立場で医療のことや病院のかかり方をお話する「在宅医療出前講座」を7年前から行っている。これを地域で行う取組みとしては、市と地域包括支援センターと連携して、公民館に出かけて実施している。また、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、リハビリ専門職、ソーシャルワーカーといった多職種と連携し、「医療介護いわき学校」という活動も行っている。今後も、新型コロナウイルス感染症には注意が必要だが、出来るだけ、このような出前講座を実施していきたい。</li> <li>・小中学生の教育として、小学生向けに7年前から「認知症絵本講座」、3年前からは、がんの特別授業も行っている。脳卒中、血管病、がん、認知症など、健康に関する様々なことを、小中学校で子供たちに向かって発信して、家に持ち帰ってもらうのも良いんじゃないかと思っている。</li> <li>・「いわきの医療を良くするための連携協定」をいわき市と医師会で結ぶ提案をしており、今後話し合いを進めていく予定である。どのように展開していくのが良いのか、医師会と行政の間で相談等を密接にやっていきたい。</li> <li>・今年、県議会で初めて受動喫煙防止に関する条例が出たが、これは国内初という、非常に先進的なものである。喫煙については、小中学校も含めて、色々なところで、禁煙あるいは受動喫煙防止の取組みを進めていきたい。</li> <li>・HPVワクチンについては、約7年前から接種が大変少なくなっているが、子宮頸がんは年間3千人亡くなっている病気で、ワクチンを打てば、相当改善させることが可能となる。他地域では、取組みを始めているところが出てきており、いわき市においても、今始めていかないと後進地域になってしまう。HPVワクチンの問題にとどまらず、やはり、先程、「汚名返上」と言ったように、「県内一を目指す」でも良いが、どうせなら「日本一の健康都市」を目指して、皆さんと協力してやっていきたいと思っている。</li> <li>・2年前の会議で、「いわき市の課題に対して、佐久病院の若月俊一先生の実践をいわきでも実践する」という話が印象に残っている。実際に、前回の会議でその話を伺ってから、戦後、若月先生が佐久の農村地区で健康改善を行い成果を上げた、この実践について、大学生に伝えるようにしており、大学という場で健康に</li> </ul> |
|------------|---|

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>ついて深く考える機会を提供していきたいと考えている。今回、大学教育の中においても、コロナウイルス感染症の問題を学生自身が経験したが、これから予測される感染症の時代にどう対応していくかということも、今の若い人たちにとって大事な教育内容になっていくと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康を維持するということで、大学には、スポーツをしている学生が多くいる。スポーツ活動についての再認識や、自分たちがやっているスポーツについて、中高生等の若い世代に、技術だけではなく、体を動かすことの意義も教えられるのではないか。また、大学では、体の面だけではなく、精神面、メンタルヘルス面についても、相談機能を高めるよう、学生相談等の充実を図っている。</li> </ul>   |
| C委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・心筋梗塞や脳卒中が多い原因は2つある。1つは、医師不足である。34万人くらいの人口に対し、それぞれの専門医や専門施設が非常に少ない上に、市の中心部にしかなく、山間部にはない状況である。広い地域に人が散在して、病院が真ん中にしかないので、救急車が緊急で運んで来ても時間がかかり、受け入れる体制も十分ではない。2つ目の原因としては、高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙者、飲酒が多いことが挙げられる。もともとの生活習慣のコントロールが悪い上に病院の受け入れ態勢も悪いということで、例えば、脳卒中は自治体単位で言えば全国のワースト3に男性も女性も入っている。心筋梗塞、心疾患もワースト5の中に入っている。日本の自治体の中でも最も低いレベルであり、高血圧にしても糖尿病にしても啓蒙していかなくてはならない。</li> <li>・山間部の方々の健康促進をするために、出前講座に協力しているが、街の中で行うよりも、山間部で行った方が、多くの人が集まる。むしろ山間部の方のほうが、健康に対する不安を抱いており、情報を求めていることが分かる。また、山間部で実施する場合には、地元の区長さんの協力も得られ、1人1人に声をかけていただける。そのような区長さん達とタイアップして、今後も出前講座を行い、山間部の方々の意識を啓蒙していきたい。その際には、多くの人が集まるので、そこで「からだが見えるお出かけ測定会」を行うと良いのではないか。そこで簡単な検査を行い、引っかかったら強く検診を勧めることもできるのではないかと思っている。</li> </ul> |
| D委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤師会では、健常な人も含めて、何か相談があった時に、薬にかかわらず健康の相談について最初の窓口になるべく、活動を進めている。通院している方については、医療機関とのやりとり</li> </ul>   |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>で、健康についてフォローできるが、通院していない、近所の住民の方にもセルフメディケーションのお手伝いとして、食事や生活習慣に関する相談の最初の窓口となるべく、出来る限りアピールをして動いているところである。薬剤師をいわきの健康促進に生かしていきたいと考えており、SNSや大変かも知れないが紙媒体等も使って、皆さんと一緒にアピールしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤師の中には、学校ごとに学校薬剤師が所属している。主に、学校の環境衛生、公衆衛生の管理を養護の先生と一緒に情報共有しながら子供達の健康を守るという仕事であるが、その部分も健康促進の根本に繋がっていくと思っている。</li> </ul>                      |
| E 委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の資料を拝見し、特定健診受診率、健康寿命が福島県ワースト1位、高血圧に関しては福島県が全国ワースト1位ということで、大変驚きを感じ、改めて、健康管理について考え、実行していかなければならないと思った。</li> <li>・連絡協議会としては、今まで健康づくりに関する取り組みを行っていなかったが、各商工会単位では各自健康診断に関する取り組みを行っている。</li> <li>・私自身もこの2年間は、新型コロナウイルス感染症の影響で外出を避けるようになり、運動不足を実感している。これからは、健康づくりに積極的に取り組みながら、健康寿命の延伸を目指し、汚名返上を目標にして参りたいと思う。</li> </ul>             |
| F 委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健衛生協会は、地域住民や各種事業所、各小中学校の生徒の健康診断を実施している。住民健診においては、各地区を巡回し、特定健診やがん検診を実施している。しかし、昨年度及び今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、受診の数が激減している。このため、市や医師会と協力し、少しでも受診していただくよう進めているところである。受診する方々には、また来年も受けていただけるよう、現場のしっかりとした環境整備も今後進めていきたい。</li> <li>・いわきっ子生活習慣病予防健診も、保健衛生協会と協力させていただいて進めている。また来年度も引き続き協力して、少しでも健康ないわき市を目指して努力していきたいと考えている。</li> </ul> |
| G 委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康推進員は、健康寿命の延伸に向けた地域住民の健康づくりを目的として活動している。新しい知識を得るために、育成支援研修会や料理教室、体操教室、健康づくり講座の開催など行っている。</li> <li>・「毎月19日は食育の日」ということで、食の大切さをお話でき</li> </ul>   |

|            |  |
|------------|--|
|            | <p>るようなリーフレットを毎年作って、スーパーの店頭などを借りて啓発活動を行っている。活動する上でコロナの影響を受けることもあるが、この新生活様式に基づいて、少しずつでも、私たちが今できることを出来る範囲でやっていこうと、活動しているところである。他団体と協力できるところは、色々協力しながら活動していきたいと思っている。</p>   |
| <p>H委員</p> | <p>・福島県栄養士会では、福島栄養ケアステーションで様々な事業を行っている。各種栄養相談、保健指導や栄養・食育の講演会、調理実習・料理教室、イベントなどでの食育の普及活動、レシピ、献立の作成や栄養価の計算等を頼みたい方には、ぜひご利用いただきたい。また、クリニックでも管理栄養士が常勤でないところがあると思う。いわき市は糖尿病が多いが、糖尿病の方は、食事が重要になってくるので、そのような場合にも福島栄養ケアステーションにお問い合わせいただければ、適材な人物を紹介することができる。また、居宅療養管理指導に対応することもできるので、管理栄養士を有効にお使いいただきたいと思う。</p> <p>・いわき市は、食塩の摂取量が多く、高血圧、糖尿病、心筋梗塞も多いが、やはり、食が大きく関わっている。啓蒙活動は大切なので、歩みを止めず継続していかなければならないが、食塩摂取量は、やっと20年近くかけて、20gから10gに減ったというところで、ここで、少し下げ止まりのところに来ているのではないかと思う。したがって、ただ減塩しましょうということではなく、今回のいわき市のプロジェクトの中に、減塩でも美味しいメニュー開発というものがあつたが、減塩のものを買って減塩しようというよりは、美味しそうだなと思って買って食べたら、それが減塩だった、体に良いものだったというように、社会にいわき市が先陣を切ってやっていければ良いのではないかと思う。メニュー開発や栄養価計算などが必要になると思うが企業内の栄養士だけでは人手が足りない部分もあると思うので、そういった場合にも、ぜひお声掛けいただきたいと思う。</p> |
| <p>I委員</p> | <p>・社協は、市民1人1人の相談を受け、支援をする仕事であり、まず自らが健康でなければならぬということ、健康を大事にすることについては、職員と確認しあっているところである。年間を通じた取組みとしては、衛生委員会を毎月開催し、職場の労働環境等を確認したり、また、臨時職員を含めた職員全員を対象にストレスチェックを実施している。毎年の健康診断に関しては、再検査も有給をとって受けられるようにしている。このように、労働環境をきちんと作ることが健康の管理に重要だと考えて</p>   |

|      |  |
|------|--|
|      | <p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社協の事業である「住民支え合い事業」や「つどいの場」では、健康や認知症、栄養に関するお話を講師を招いて行っており、現在 65 歳以上がメインであるが、今後は、若い人たちも入ってくる組織にしたいと考えている。その中で、例えば「からだがみえるお出かけ測定会」なども取り入れながら、市民の健康が守れるような事業を展開していきたいと思っている。</li> </ul>   |
| J 委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育協会では、特に陸上競技において、年に 4～5 回の指導者研修会で、選手強化ばかりではなく、職員についての問題やコロナの問題など、色々な問題を取り扱っている。また、小学生については、年に 4～5 回の強化練習会の際に、健康づくりに関する講話を行っている。</li> <li>・ここ 2 年は、小学 6 年生全員が参加する大会である、小学校体育大会が中止になっている。これは、発表の場が無いということなので、ぜひ来年度は実施するようにお願いしたい。</li> <li>・今後も市と連携を図りながら、いわき市の健康づくりに寄与して参りたい。</li> </ul>                                   |
| K 委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で、各小学校の運動会が中止になったり、縮小したりしている。また、小学校体育大会もなくなったことで、練習もなくなり、子供が体を動かす機会が減っているため、親も心配している。</li> <li>・先程、四倉地区で子供の健康教育をしているとのお話があったが、ぜひ、医師会の他の先生方に、他の地区でも実施していただければと思う。子供は、外部講師の先生のお話だと、家に持ち帰って話すことが多く、それは、親の刺激にもなるので、ぜひお願いしたい。</li> </ul>  |
| L 委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いわき市内では、労働災害が年々増加傾向であることから、労働基準監督署としては、今年度、労働災害の防止を中心に取り組んでいる。</li> <li>・昨年は、新聞やニュースにも取り上げられたが、重篤な死亡災害や、県外の労働者の方ではあるが、建設業においては、コロナの感染によって死亡するという事案も発生しているため、災害防止と同時にコロナ対策も進めていきたい。</li> <li>・いわき市が、健康診断の有所見率が高いことについては、監督署としても把握しているところである。来年度の計画作成に際しては、健康管理や健康増進に関して計画の中に組み込みながら、労働災害の防止と合わせて健康管理の取組みというところも主</li> </ul> |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>眼において計画を作り、健康管理の指導を進めていきたいと考えている。</p>  |
| M委員 | <p>福島県国民健康保険団体連合会では、国民健康保険に関する各種事業を実施している。保険者が実施する保健事業、その支援を通じて、保険者の健康づくりの取組みの一助となればと考えている。</p>   |
| N委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定健診は協会けんぽの保険者で、がん検診は市町村が実施するという仕組みになっているが、がん検診が重要になってくるといことで、がん検診と特定健診の一体となった受診を強く進めている。協会けんぽの加入の方も市町村の集団けんしんで一緒に受診していただくために、日程の広報等を行っている。協会けんぽの加入者についても、がん検診を受けていただけるような体制作りを、市と連携してやっていきたい。</li> <li>・協会けんぽにおいても、特定保健指導を実施している。コロナ禍で事業所への受け入れが難しい部分もあるため、Webでの指導を今年初めから進めており、少しずつ実績を伸ばしているところである。加入者の方の健康維持というところで、今後とも事業を進めていきたい。</li> </ul>  |
| 市長  | <p>冒頭で、市の担当者から、それぞれの健康指標を厳しいデータ・数値を示しながら紹介させていただいた。医師会より、「汚名返上」「日本一を目指すぐらいの気持ちで」という本当に力強い言葉があった。このような厳しいデータをすぐに日本一にするのは難しいにしても、例えば、まずは3年がかりで県平均を目指していきましょう、その上でさらにそれを乗り越えて日本一を目指していきましょうと、そういう形でのPDCAということで、毎年データを、どのくらい改善できたのか、改善できなかったのか、改善できなかったのであれば、次の年からどのようにアクションを起こしていくのか、そのような取組みが必要だと改めて実感した。そのためには、市民全体にしっかりと課題を認識してもらい、今後、目標や期間等のヴィジョンの整理をしっかりと市の方でしなければならない。その上で、様々な団体の取組みについて市民の皆さんに見える化をして、目標を設定し、毎年、検証も重ねながらやっていく必要があるということ、委員の方々の意見を聞きながら、感じたところである。</p> |

(3) その他（意見等）

| 発言者 | 内 容  |
|-----|--|
| A委員 | <p>市で、塩分摂取のことで、色々取り組みをしているとのことだったが、やはり、食べ物が一番大切なところだと思う。</p> <p>パンの塩分について、急に減らそうとすると味がしないような気がして駄目なので、街の中で協力しあって少しずつ減らしたという取り組みがあった。スーパー等で、塩分の濃度を少しずつ下げて、結果的に食べたら美味しく塩分も低かった、というような取り組みが出来れば良いと思う。</p> <p>また、コンビニは、カロリーが高くて味が濃いものを売る傾向がある。地域のコンビニの人たちに集まっていただいて、栄養士さんの指導等も入れながら、少しずつ塩分を下げ、気付かぬうちに塩分摂取量が下がっていくようなことができれば良いんじゃないかと以前から思っていたところである。</p>           |
| C委員 | <p>山間部の出前講座や、学校での講演等、確かに医者側からの情報提供というのは、聞きたいということで集まっていただけで、特に認知症のお話をすると反響がある。小名浜でやっている出前講座は、ここ2年くらいコロナでできていないが、小名浜支所から毎年依頼が来ていた。市の方には、「ここで、こんなことがやりたい」とか「この学校でこういう勉強会がやりたい」というスタートと、そのマネジメントをお願いしたい。特に、コロナなので、感染対策ということで、その会場の準備や換気なり、あるいはウイルスの除去の機械やアルコール等を市で用意していただき、これなら安心して講演会ができるというマネジメントをやっていたら、依頼があれば山間部の方に行って一緒に健康チェックをやるという用意はあるので、ぜひお願いしたいと思う。</p> |
| A委員 | <p>地域で働いている方が特定健診・がん検診を受けていないとか、受けていてもその後の指導を受けなくてそのままになってしまうことが、やはりあると思う。我々が地域に出て行っていく在宅医療出前講座の場合は、各地域の包括支援センターが人集めをして、地域医療課の方も来て、医師会と一緒にやってやるというのを7年くらい、6つの地域で必ずやっており、早く復活させようと今、動いているところだ。がん教育や認知症の講座など、私1人でやっているところもあるが、こういった取り組みをしているところは、そんなにないので、出来るだけ広</p>   |

|            |  |
|------------|--|
|            | <p>げていきたい。これからはやはり、地域に出ていくということの他に、職場にも行く必要があるのではないかと考えている。そして、医者の数も限られているので、医者が話すこともあるが、役所の人も一緒に行って、ノウハウが出来てきたら、また色々な人が関われるような形にしたら良いと思う。やはり、色々な人が力を合わせないと、1人で頑張ろうとしてもできないと思うので、相談しながら進めていきたい。</p>  |
| <p>市長</p>  | <p>医師不足という話もあったが、いわき市は医療が厳しい中で、8月の特にクラスターが厳しい状況の時に、医師会はじめ医療関係者の方は、本当に命を懸けて市民のために、コロナを乗り越えるための対処をしていただいたので、今の状況があると思う。医師の方々には、また負担になってしまうかもしれないが、健康づくりも総力戦でやっていくしかないと思う。学校現場や地域の高齢者、働き盛りの職場に向けた講座の開催などの活動を行っていくことが非常に大事だと痛感したので、市役所とも連携させていただければと思っている。</p>   |
| <p>A委員</p> | <p>いわき市では、コロナ対策会議を2年間で29回開いている。ある程度の感染者数までは、いわき市医療センターで診るが、数が増えて来てしまったら、他の病院も対応してほしいということで話し合いを進めていた。</p> <p>今、協力してくれている7つの病院があるが、感染がだんだん増えて、いわき市医療センターだけでは対応が難しくなったときに、少しずつ病棟をコロナ対応にしてくれた。宿泊療養の方も診る人が必要で、看護師さんが状態を見てタブレット入力したのを病院協議会で連携して管理した。このような、いわき市の方式が、今大変全国的にも注目されている。本当は入院が一番良いが、8月は、さすがに自宅療養者も出てしまった。そこも、医師会と協力して、電話対応や診療をする医師を地域ごとに決めて振り分け、対応した。これを、福島県内でいわき市は、こういうふうにやりましたというのを出して、県の他の地域から問い合わせが来ることもある。いわき市は、医師が少なく、全国平均の7割以下で、本当に苦しい状況だが、それだけ少ない中でも、みんなで力を合わせてコロナを乗り切ってきたということで、やはり、コロナ対応の前線対応している医師、看護師、スタッフの方、これは、いわきの誇りだと思う。困った時には集まって相談して、方向性を決め、やってみて、また集まるということをコロナ対応としてやってきたが、健康づくりも、計画を立ててやってみて、また戻って進行管理をやって</p> |

|           |   |
|-----------|---|
| <p>市長</p> | <p>いけば、いわき市は、医療機関が少ないところもあって、急性期の医療が大変厳しい部分があるが、健康づくりに関する皆さんの力を合わせていけばやっていけるんじゃないかと思う。</p> <p>現在、市では、医療の構想会議を立ち上げ、ネットワークを作りはじめたところである。今、お話のあった「いわき市方式」ということで、医師会、病院協議会、保健所が、今回のコロナ禍で連携し、繋がりが深まったと伺っている。同様に、健康の問題についても、対処して乗り越えていきたいと思っている。医療関係者や、本日お集りいただいている各関係団体の方々と連携し合って、ぜひ難しい問題を乗り越えていきたい。</p> |
|-----------|---|

本議事録に相違ないことを証明するため、ここに署名する。

令和4年1月31日

議事録署名人

坂本 満恵 (印)

議事録署名人

高萩 周作 (印)

(印影省略)